

研究分野のキーワード：日本語学，日本語の歴史，モダリティ，意志表現，記述研究

## 研究紹介

現代日本語では、話し手の意志を表す表現形式には以下の3種類があります。

1. 動詞＋助動詞「う（よう）」  
例：来週、北海道に行こう。
2. 動詞＋形式名詞「つもり」＋断定辞「だ」  
例：着いたらラーメンを食べるつもりだ。
3. 動詞の基本形（終止形終止）  
例：メロンも食べるぞ。

多くの場合、これらの三形式は相互に入れ替え可能ですが、発話の場面の条件により、ある形式以外は日本語として不適格になる場合があります。例文の前の\*印（アスタリスク）は、日本語として非文法的な（不適格な）文を、?印はやや不自然な文を表します。

例：（二人で対等に相談しながら花壇を作っている最中に）

ここにはコスモスを植えよう。

\*ここにはコスモスを植えるつもりだ。

?ここにはコスモスを植える。

自分が決めた意志を、一方的に相手に伝える場合には「～つもりだ」や動詞終止形終止文が使えますが、対等の相手と相談しながら意志決定を形成していくような場合には「～う（よう）」しか使えません。このように、よく似た意味・機能を持つ表現の用法を観察していくと、何らかの違いが見出されます。

歴史的には、助動詞「う（よう）」と形式名詞「～するつもりだ」は、近世（江戸時代）以降に意志表現として確立しました。動詞終止形終止文で意志を表す用法は中古（平安時代）から存在しますが、現代日本語のような明確な意志表現として文献によく現れるようになるのは、やはり近世以降のことです。

このように、現代日本語に見られる現象が、いつ頃から、どのようにして成立してきたのかということに興味を持って研究をしています。